52th クラブ週報城東版

国際ロータリー第2580地区

Rotary
東京城東ロータリークラブ

2018.　2.　26　　第2414回例会

「ロータリーの可能性を追求しよう」

東京城東ロータリークラブ会長　阿部　豊

例会日　毎週月曜日　12:30 ～ 13:30
例会場　〒 130-0013　墨田区錦糸1-2-2　TEL 5611-5511
東武ホテルレバント東京
事務局　〒 130-0013　墨田区錦糸1-1-5
TEL 5637-4605　FAX 5637-4611
事務局　天尾　文（伊藤）
E-mail　jyoto@club.email.ne.jp

会　長	阿 部　豊	副会長	若井　一郎
幹　事	江波戸　健 治	副幹事	根本　弘道
		会報委員長	宮﨑　浩一

ＲＩ会長
イアン H.S. ライズリー

第2580地区ガバナー
吉 田 雅 俊

第2580地区幹事
本 多 良 美

ガバナー補佐：山本和夫
(東分区担当)
東分区幹事　：中山直幹
東分区副幹事：山本昌之

ロータリー：
変化をもたらす

本日の卓話

「 税制改正について 」

今 井 邦 彦 会員

2018/2/19(月)
「 日本経済の現状と見通し 」
アセットマネジメントONE
国 崎 宣 彦 氏

2018年2月19日 例会報告

点　鐘
ロータリーソング　『我等の生業』
ゲストスピーカー　2名
ゲスト及びビジター　0名
会員出席状況　47名中35名(出席率74.47%)
前々回訂正出席率　100%

ニコニコボックス

○国崎様、卓話よろしくお願い致します。
阿部　豊君・若井一郎君・奈良康司君
石川　勲君・会田　博君・渡辺孝至君
江波戸健治君

○根本さん、入会おめでとうございます。
阿部　豊君・若井一郎君・佐野一信君
江波戸健治君・山田　昇君・中村浩紹君

○入会させていただきます。よろしくお願い致します。
根本弘道君

○お祝いを頂いて。
奈良康司君・田島敬三君・宮﨑浩一君
村上愼吾君・上條隆志君

小計￥41,000.-　累計￥1,768,000.-

- 来月3月の受付当番 -

池永君/伊藤(裕)君/今井君/宇都宮君/梅野君

次回の卓話

「『帆船日本丸』と共に歩んで半世紀 」

安 田 岩 男 氏

内 容 充 実 の 為 に、皆 様 か ら の 投 稿 を お 待 ち し て お り ま す ！

▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽▼▽

ＲＩニュース：2018.1.22①

▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△▲△

「野獣鉄道」が運ぶ避難民たち（前編）

メキシコ南部では、避けられないことが２つあります。一つは、砂埃。二つ目は、暴力。「野獣（Beast）」と呼ばれる貨物鉄道で、私はその両方を目にしました。

これまで半世紀以上、貧困、数十年にわたる内戦、そして最近では、残虐なギャングから逃れて中米諸国から何百万人もが、メキシコ国内を南から北へと移動します。避難民たちは「野獣鉄道」に飛び乗り、遠くへと逃れようとします。

2014 年７月、メキシコ入国管理当局は、南の国境計画を発表。しかしそれは、避難民が「野獣鉄道」を使えなくするものでした。大統領は、この計画により新しい経済地帯を作り、歴史的に不安定なこの国の南部国境を強化することによって避難民の人権を保護する、と述べました。しかし現実には、それとは反対に、暴力を受け誘拐され、殺害される避難民の数が急増。臓器売買のブラックマーケットの犠牲になる人もいます。

2015 年の初め、私は、ロータリーのグローバル補助金奨学生としての研究を終え、社会人類学の修士号を取得しました。そこで学んだのは、メキシコの貿易と開発への取り組みが、人々の生活を安全にするどころか、より危険にしていることでした。問題の原因を探り、研究で得た知識を生かすために、私は南メキシコに赴きました。

メキシコ南部は、自給自足農業を営む貧しく小さな農村集落がほとんどです。とはいえ、私はなんだか故郷に帰ったような気分でした。ジョージア州の田舎町で育った私は、農民たちに英語を教えていました。避難民について興味を持つようになったのも、その経験がきっかけです。避難民のほとんどは、メキシコ南部出身者で、そこで麻薬や人身売買による暴力の話を聞き、この地域に関心を持ったのです。

南の国境計画が人々の生活にどんな影響を与えているかを理解するため、私は避難民シェルターにしばらく滞在することにしました。そこは、ホームレスの保護施設とも、難民キャンプとも異なるものでした。水道や電気がないケースがほとんどですが、北部に向かう前に温かい食事と寝る場所は確保できます。

シェルターでの生活は、私にとって衝撃でした。病人やけが人が毎日のように到着し、重度の脱水症状が大きな問題となっています。文字通り足の裏の皮がむけるまで歩いてきた人もいます。ギャングが誰かを誘拐しようとし、シェルターの責任者がこれを制止したこともありました。

私が到着した頃、「野獣鉄道」の路線沿いにあるシェルターの避難者数は、一晩あたり 400 人から、100 人弱に減っていました。シェルター責任者によると、中米諸国からメキシコに逃れる人は年間約 40 万人で、その数は減少していません。シェルター利用者の利用が減ったのは、出入国管理担当者が「野獣鉄道」に近寄る人を無差別に拘束するようになり、怖くてシェルターに近寄れなくなったからです。安全だったシェルターが、立入禁止区域に変わってしまったのです。「これは、シリア問題にも匹敵する人道的危機だが、誰もこの問題を取り上げていない」と責任者の一人が口にしました。

私はシェルターで、まき割りや食事づくり、台所の床そうじをしました。包帯を取り替えたり、難民認定申請書を書く手伝いをしました。私は、北に向かう避難民たちと一緒に生活し、移動しました。そうしながら、彼らがなぜ逃れなければならなかったのか、どこに行きたいのか、途上で何が起こっているかを記録しました。

３人の子を持つシングルマザーのミルドレッドさんは、保護料として金を払わないと家族を殺すとギャングから脅され、逃れてきました。ホンジュラスの自宅で殺し屋に家族を殺されそうになった、６人兄弟の長男イヴァンさんは、年老いた母親と２人の幼い甥を含む家族全員を自力でメキシコに移動させました。ミルトンさんは長年ニューヨーク市に住んでいましたが、国外退去となる前の 2001 年９月 11 日のテロ事件当時、すすだらけになった歩行者たちを自分のアパートに避難させ、世話をしました。

私はここで、恐ろしい事実を知りました。政府によるこの計画は、メキシコの国境を強化する代わりに、従来の移住ルートを使えなくしてしまったのです。そのルートは危険でしたが、秩序があり、見晴らすことができました。避難民たちは、列車のどのあたりにギャングがいるかを把握していました。5 ドル～ 20 ドルの保護料を払う覚悟もあり、安全のために団体で移動しました。近くにはシェルターや赤十字、警察署さえもあり、助けを求めることができました。

しかし、南の国境計画でそれが一変。入国管理官に見つからないように、避難民たちはジャングルの奥深くを何日も歩かねばなりませんでした。避難民たちから金を奪っていたギャングは、ジャングルまでついてきて金を奪い、拉致し、殺すこともあります。

南の国境計画は、開発の取り組みとしては失敗でした。避難民の厳重な取り締まりは、メキシコ南部の治安を悪くしただけでなく、暴力の増加により、この地方が切実に必要とする設備投資を阻害する結果となりました。

（次回へ続く）